《問い合わせ先》
第十一管区海上保安本部
海洋情報監理課長　　中村　均
０９８－８６７－０１１８（内線 2510）

第十一管区海上保安本部
令和３年７月２８日

令和３年、海図１５０年を迎えます

～海図１５０年パネル展を開催～

海図は、船舶が安全かつ経済的に航海ができるように、水深、底質、暗礁などの状況、沿岸の地形、灯台といった航路標識、自然・人工目標物などの必要な情報を掲載している「海の地図」です。

令和３年（２０２１年）は、明治４年（１８７１年）に、我が国が近代技術をもって、港湾・航路・沿岸及び海洋の水路測量等の調査から海図などの編集や刊行までを一貫して行う本格的な水路業務を開始してから１５０年を迎える記念の年です。

第十一管区海上保安本部では、海図１５０年に合わせ、沖縄県立博物館・美術館などおいて、パネル展を開催します。

１　開催場所・期間

①　沖縄県立博物館・美術館エントランスホール
　　令和３年８月３１日（火）～９月１６日（木）

②　沖縄県立図書館３階展示エリア
　　令和３年９月　１日（水）～９月２７日（月）

③　沖縄美ら海水族館総合休憩所
　　令和３年９月　１日（水）～９月３０日（木）

２　展示概要

明治・昭和初期の海図の紹介や港が比較できるように現在の海図を展示するほか、明治からの測量の変遷や最新機器の紹介、海洋情報の提供について展示します。

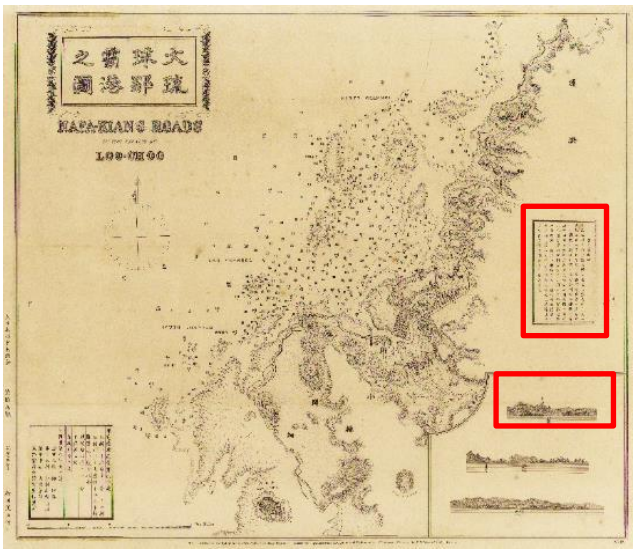
３　主な展示物

・陸中國釜石港之圖（りくちゅうのくにかまいしこうのず）
　明治５年（１８７２年）に刊行された我が国初の海図

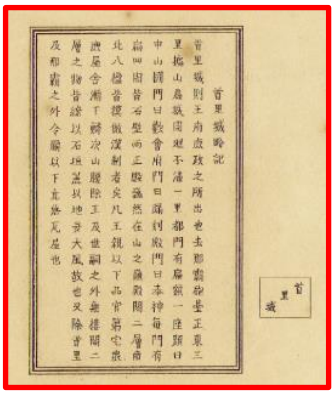
・琉球群島之圖（りゅうきゅうぐんとうのず）
　明治７年（１８７４年）に刊行された沖縄群島の海図
　ペリー提督に関係する海図の情報等が取り入れられている

・大琉球那覇港之圖（だいりゅうきゅうなはこうのず）
明治７年（１８７４年）に刊行された那覇港の海図
琉球大国の王府、首里が描かれている
・中城灣（なかぐすくわん）
昭和１１年（１９３６年）に刊行
海軍の作戦用の機密海図「軍機」の文字が記載がされている
・最新の観測機器
海上保安庁で使用している観測機器の紹介
・海洋情報の提供
「海洋状況表示システム」（海しる）の紹介

●パネル展示物例

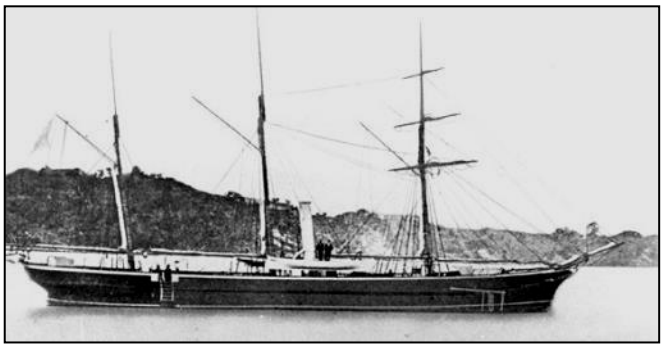


大琉球那覇港之圖


首里城略記

対景図

明治５年　国内第一号の海図「陸中國釜石港之圖」刊行
明治６年　南西諸島の測量実施
明治７年　那覇港（１９号）、運天港（１８号）の海図刊行



南西諸島を測量した

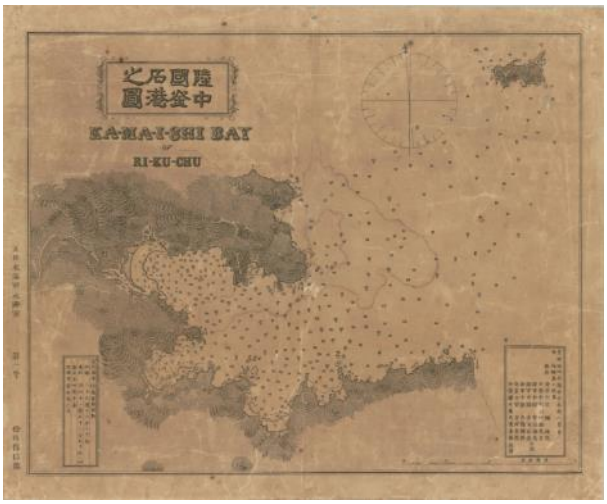
「第一丁卯（だいいちていぼう）」

●水路記念日について

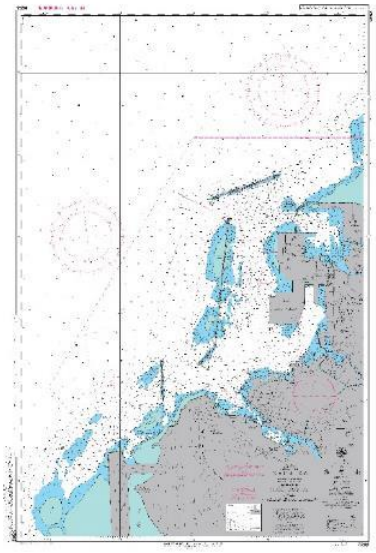
９月１２日は、海上保安庁海洋情報部（旧水路部）創立の日です。明治４年（１８７１年）に当時わが国の緊急課題であった日本沿岸の安全のため、海図づくりを使命とした兵部省海軍部水路局が誕生しました。勝海舟らとともに長崎海軍伝習所においてオランダ式の航海・測量術を学んだ初代水路部長の柳楢悦（やなぎ ならよし）は、日本人のみでの測量を精力的に推進しました。

東京築地の海軍兵学寮（後の兵学校）の一室で、現在の水路業務の基礎がスタートし、日本人による近代的な海図づくりが開始され、明治５年国内第一号の海図「陸中國釜石港之圖」が刊行されました。

柳楢悦少佐【初代水路部長】



海図第一号「陸中國釜石港之圖」
（明治５年）

●航海用海図

海上保安庁は、船舶が安全で効率的な航海ができるための海図を作っています。海図は、船舶の航海の目標となる岬などの海岸地形や灯台などの航路標識の配置などから海図の包含区域、縮尺を検討して編集・作製されます。海図の編集は、測量成果、海潮流の観測成果などの資料を基に国際的に決められた記号や表現法に基づき、正確でしかも使いやすいように行われます。海図は航海に必要な水深、灯台の位置、海潮流の速さや方向などが詳しく記載され、航海者にとっては欠くことのできないものです。このため、ごく一部の小型船舶を除く全ての船舶に対して、海図を備え付けることが義務付けられています。